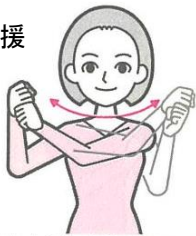


応援



両手拳を上下に置き、ゆるやかな弧を描いて同時に左右に振り、



「おかえり」「ただいま」と言い合える松ろうに
松江ろう学校はシトラスリボンプロジェクトを応援します

手と心でつながる わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～

かきばらの風

第48号 令和3年7月20日

松江ろう学校 校長だより 福島朗博

2年振りの全校行事 みんなの心が一つに

この度の大雨により臨時休校としましたが、各家庭で対応いただきましたこと、また1学期を通してご協力ご支援をいただきましたことにお礼申し上げます。貴重な体験学習の紹介です。

幼稚部七夕会



かわいい甚平姿で願い事叶いますように

合同の宿泊学習は叶わなかったけど、リモートで会いたかった気持ちつながりました



小学部 浜田ろう学校 交流



小5交流：田植え体験。田んぼで転んで優しいお友だちに助けってもらいながら、最後まで丁寧に苗を植えました

小3交流：道栄寺で座禅体験。和尚さんに肩をたたいてもらって「うれしい気持ちになりました。」と笑顔。えんま大王や湖北の小学校発祥の地であることを学びました



小学部 古江小 交流学習

カナダのことを教えてくれたマーシャルさん。リモートで世界とつながっていることを実感！



中・高部 英語

本校のALT アザドさんや本校英語教員の知人で、雲南市のALTさん(左)、カナダ在住の方(右)とZOOMのリモートでつながり、英語や手話を教えあってコミュニケーションを楽しみました



デーレクさんは日本の手話や指文字もマスターされていてびっくり！



■ 2年振りの全校が一つになった体育祭りハーサル (6月18日)

体育祭を予定していた6月19日(土)は雨天となり、従来のような体育館使用はコロナ感染対策から行わないこととしました。天気予報で本番中止を見越して、前日の18日のリハーサルを本番に近づけた内容に充実させて行いました。子どもたちにとっては、幼稚部から高等部まで全員が久しぶりにそろった活動となり、みんなで応援するなど、リハーサルといえども感慨深いものがありました。保護者に観てもらえなかったのは残念でしたが、31名の子どもたちがそれぞれの学部の競技や全校のダンスやリレーで、心を開放させ、体をいっぱい動かして楽しんで、みんなの心に残る一日になりました。



ポスターは幼稚部9人の自画像です



幼：「みて！おおきなむし、み～つけた！」



小：「がんばれ！2021小学部オリンピック」



中・高：「まごころ込めてお届けします、はこび屋本舗」



全校ダンス「パプリカ」みんなの花がさいたよ♪

■ 中学部職場体験（2・3年生）・職場見学（1年生）「大人になった感じがした」（5/25～27）

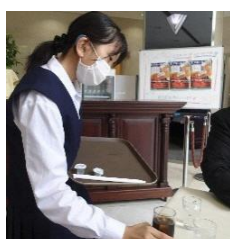
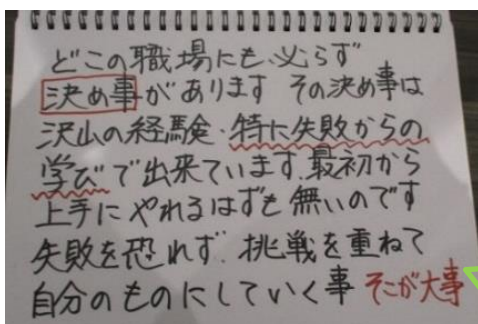
中学部で職場体験と職場見학을学年別に行いました。生徒たちは受け入れ先の職場でよく頑張りました。保護者の参観を兼ねた報告会では、「体験で気づいた自分らしさ」をテーマに、生徒はパワポを使用して発表しました。「1日目はたくさんダメ出しをもらった。がんばって3日目は90点もらった。」「仕事のやりがいは、お客さまに『ありがとう』と言ってもらえることだと気付いた。」「去年よりコミュニケーションをとることができたのは、躊躇せずに一生懸命に質問することは大事と思ったから。」「自分のいいところが見つかったので、勉強も頑張ろうと思った。」「少しずつ仕事に慣れると、大人になった感じがした。」などと自分を振り返っての素敵な感想が聞かれました。今回の体験をこれからの学習に活かしてほしいと思います。また、ある会社からは「職場で手話ができるようになりたいので、学習会をお願いしたい。」という嬉しい依頼もいただきました。お世話になりました職場の皆様には厚くお礼を申し上げます。



中学部1年「職場見学」
松江ニューアーバンホテル、ピーターパン、ナカバヤシ平田工業、トライアル松江店にお世話になり、お仕事中に接待や物作り等の極意を聞いて多くのことを学びました。



中学部2・3年「職場体験」
サンラポーむらくも、みしまや春日店、だんだん工房、アクティブ99、ワンラブアクロスガーデン松江乃白店に3日間お世話になりました。緊張しながらも頑張りました。



ある会社ではきこえない生徒のためにスケッチブックにまとめて説明してくださいました。プロフェッショナルな熱いメッセージに感動しました。

■ 「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針作成に関する検討会」

厚労省による標記の策定会議で、医師や学識者等に交じり、ろう学校長の立場で参画しています。先般の3回目の会議では、本校の早期教育や関係機関との連携協働について、平成18年から行っている松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会を中心に、島根県の支援体制の実情と課題を報告しました。下記スライドはその一部で、公立ろう学校としての使命や課題をまとめたものです。この会議の様子は全国的に注目されており、YouTubeで見ることができます。関係機関の連携の促進により、保護者への適切な情報提供など支援の充実への期待が高まっています。

2 公立ろう学校としての(県に1, 2校)
早期支援の使命と課題

- ・聴覚口話も(補聴器や人工内耳の最大限活用)手話も(視覚的情報保障、早期の言語理解による意思表示が可能に)
- ・子どもの実態に応じながらトータルコミュニケーションで
- ・自覚的聴力検査と生活場面等の行動観察による聴覚評価、先輩保護者や当事者のロールモデルの存在
- ・乳幼児教育相談の校内における位置付けや体制、担当数は教員定数内での運用に任される(確立されていない)
- ・特に児童発達支援センターの無い県では保護者の唯一の支援拠り所となる重責
- ・ろう教育の専門性かつ校内でも特異な専門業務、担当者の力量大...教員異動等や専門性の育成・継承が課題
指導教諭、エキスパート教員、専任教員?...
- ・耳鼻科医キーパーソンや言語聴覚士(特に人工内耳装用児の支援共有)の連携協働が不可欠

7 まとめ

- ・きこえない子どもの愛着関係の形成のために、保護者の安定と育児自立が促される早期支援が鍵。ろう学校はロールモデル教育環境を強みに、特に障がいの受けとめを大事にした保護者支援を行う。
- ・「新生児聴覚検査から早期支援・早期療育までの円滑な実施」のためには「手引書」だけでは不十分で、それを活かして、県または各圏域の実情に応じた支援体制の構築と課題検討を継続して行う連絡協議会の機能(キーパーソン・自治体が核)が重要。
- ・全国ろう学校における乳幼児教育相談の明確な位置付け(センター的機能の加配による充実)。
- ・学校における聴覚障がい教育の専門性の確保と維持(県教委のバックアップ)及び関係機関(療育・教育機関同士も含む)との連携協働による専門性の向上が円滑な早期支援と充実に繋がる。

このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは松江ろう学校ホームページでご覧になれます。⇒

